

令和元年度
「学校関係者評価」報告書

令和2年3月
学校法人 新潟高度情報学園
新潟こども医療専門学校

学校法人新潟高度情報学園 新潟こども医療専門学校自己点検・自己評価委員会「学校関係者評価」専門委員会は、令和元年度自己点検・自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り報告いたします。

1. 学校関係者評価専門委員会委員名簿

氏 名	所 属
林 正海	はやし社会福祉士事務所 代表
田村 知子	済生会新潟病院 事務部 医事課 係長

2. 参加者

学校評価委員

林 正海 (はやし社会福祉士事務所 代表)

田村 知子 (済生会新潟病院 事務部 医事課 係長)

学校側参加者 (事務局)

小見 英晴 (新潟こども医療専門学校 学校長)

横堀 正浩 (新潟こども医療専門学校 副校長)

石川 美穂 (新潟こども医療専門学校 教務課長)

本田 拓也 (新潟こども医療専門学校 就職支援 課長代理)

小熊 亜沙子 (新潟こども医療専門学校 医療事務総合学科主任)

3. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

項 目	評価・意見・質問等
基準1 教育理念・目的・育成人材像等	・理念を見直し、分かり易く項目を明確にしているようである。
基準2 学校運営	・特になし
基準3 教育活動	<p>・こども未来学科は提携大学の変更により成績評価や進卒基準が不安定としているが、「工夫・開発などの実施」が行われているのであれば評価して良いのではないかと。目的を見失っている学生への指導にカリキュラム上の余裕がないとのことだが、学生たちは概念化する力がやや弱いと、教員の理解している「こうしてこうするとこうなる」といった見通しを、いかに明示化するかが重要。</p> <p>・こども発達学科では教職員が手本となり学生のコミュニケーション方法や礼儀作法を身に付けさせたいとあるが、具体的に</p>

	<p>はどのように学ばせようとしているのか。「見て学ぶ」ができていれば不適切なコミュニケーションの事例はとうに学んでいるはずである。見るだけでは学べない人に、どう学ばせるかの仕掛けが必要である。まずは「内と外」、「目上と自分」等の立ち位置を明確にできるかどうかである。直接的な指導より、悪い事例を挙げ「自分たちはどう思うか」を問うほうが、学生のダメージなく学べるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども学科は「教員の指導力育成や資質向上の取り組み」において、不適切から適切に評価が上がっている。研修のフィードバックは必要。 ・医療事務総合学科では医療系以外の検定へのモチベーション維持が難しいとのことだが、単に資格の上乗せで就職活動をする時代は過ぎており、実務コミュニケーション能力の上げ増しに注力し、検定の重要性を伝えたいかがか。再就職の際には、他の検定・資格も重要である。専門性を超えて、人としてのスキルを磨くことは大事。 ・詰め込んで育てられた子どもは杓子定規の考え方を持ちがちである。自信がない社会人が多いので、学生のうちにできることをさせて、褒めて、自信を持ってもらう等の取り組みも大切。精神障がいや発達障がいについては学生の中に気付いてあげられると新しい道を提示することができる。中途の離職率を見るとそういったことが考えられる。
<p>基準4 学修成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・退学率の低減が図られている学科は評価すべき。しかし、退学者にもいろいろ理由があり、この年齢の学生たちは道に迷う時期なので、必ずしも「退学＝悪」ではない。「他の学生となじめない」等の人間関係が原因での退学は何か考えてあげたい。 ・LINE等、学生が得意とするツールを教員側も適切に利用し、対面でのコミュニケーションが難しい学生との対話に活用することは悪いことだとは思わない。 ・全体的に退学者が減り、専門職種への就職率も高いことは、賞賛に値する。先生方のフォローが良い。
<p>基準5 学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度と評価の変更がないので体制づくりの具体的な案を提示すべき。
<p>基準6 教育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・風水害等の災害時、学生が学校に留まる際の対応も考えておくといい。 ・災害時教育として、具体的な対応について学生に問いかけたり、災害時の伝言ダイヤルをかけてみる等、もしもの時の対応

	や知恵を付けておくことも大事。
基準7 学生の募集と受け入れ	・学生の半数が奨学金を利用しているが、学ぶ機会のためには修学支援制度も必要である。(次年度に向けて準備中)
基準8 財務	・特になし
基準9 法令等の遵守	・個人情報保護上の責務ではなく、いわゆる事業の継続性というところで、学校長が代表の学校のリスク管理が重要である。個人情報については職員間で意識の差があるが、具体的な事例を伝えて考えるきっかけを作ることによって啓発を図ると良い。 ・個人情報の管理については、現実可能な対策を事故が起こる前に立てておくことである。
基準10 社会貢献・地域貢献	・活動を求めるより、ボランティアへの理解を深めることが大切。周りの人のためになにかちょっとできることはないかという気持ちで、つながりを感じることができると良い。

4. 学校関係者評価の総括

専門学校のみならず、学生の理解度の低下は毎年問題になっている。「失敗が怖い」「危ないことはしない」「興味がわからない」といった性質から物事に対する意欲が持てないことも原因の一つと考えられる。学校では「勉強するとこういうことが学べる」という魅力を学生に伝えることが大切である。

こども分野では、中学生が職場体験に臨む時のような素直な気持ちで現場を経験することを目的とした「中学生作戦」を実習に取り入れた。これにより、保育園や幼稚園の仕事に興味を持つ学生が増え、退学率の低減が図られた。医療分野では、医療系とは異なる分野の知識や経験を得ることができる「魅力アップ講座」を行い、人としてのスキルアップを目指した。次は、これらの取り組みを「なぜ行ったのか」学生たちが考え、自分の言葉で言語化できるようになると良い。学生自身が「これを学ぶと次はどうなっていくのか」と見通しを立てられることで、学習到達レベルも引き上げられていくだろう。

全体的に退学率が低減し就職率が向上しているという学修成果は評価すべきである。より良い学生支援を目指すのであれば、具体的な方策を立てるべきである。

個人情報の取り扱いに関しては教職員の意識向上が必要である。パスワードを定期的に変える、USB管理を徹底させる、また、組織では情報課の設置や委員会の立ち上げ等、問題が起きる前のリスクマネジメントにもっと目を向けなければならない。